Nara Women's University

B. 研究開発の経過: VII. 本校生徒の性格特性

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 奈良女子大学文学部附属中・高等学校 公開日: 2010-10-04 キーワード (Ja): 性格特性 キーワード (En): 作成者: 中村, ハツ子, 出野上, 良子, 松田, 正昭 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10935/2124

Ⅶ. 本校生徒の性格特性

Ｙ・Ｇ性格検査とＣＡＳ不安診断検査を実施して

健康部　中村ハツ子・出野上良子・松田正昭

Ⅰ．はじめに

校務分掌としての本校の健康部は伝統的に養護教諭１名と他教科の教諭２～３名で構成され、本校生徒の様々な面での健康管理、維持に努めてきたが、この近年、無気力、無感動、思春期の食喰不振症（やせ症）や登校拒否、ノイローゼなどの精神的な問題を抱える生徒も多くみられるようになってきている。

このような状況から、生徒一人一人の性格傾向やその特徴、心理的な不安傾向を知り、理解することが、生徒指導の上でも健康指導の上でも必要だと思われ、その参考資料とすべくＹ・Ｇ性格検査とＣＡＳ不安診断検査を実施した。生徒個々人につきその結果を処理した後、全てのデータを大型コンピューターにインプットし、従来、我々教師がフィーリングや“勘”としてとらえていた本校生徒の性格特性を心理学的に把握できるよう試みたものである。

Ⅱ．Ｙ・Ｇ性格検査について

①　Ｙ・Ｇ性格検査についての理解

この検査は周知のように『質問紙形式』の性格検査である。性格に関するいくつかの質問項目をならべ、これに対して自分の性格を内省し、『はい』『いいえ』『どちらでもない』の三件から回答を求め、その結果の統計的考察からその個人の性格特性を測定し、性格診断の資料とするものである。質問項目の総数は中学用、高等学校用とも120項目で、この検査によって測定される性格特性は12特性あり、それぞれの頭文字をもって表記する。

〈12の性格特性〉

Ｄ：抑鬱性（Depression）
度々ゆううつになるなどの、陰気な悲観的な性質である。

Ｃ：回帰性傾向（Cyclic tendency）
気が変わり易い、感情的であるなどの、情緒の不安定な性格を見るものである。

Ｉ：劣等感（Inferiority feelings）
劣等感に悩まされる、自信がないなどの性質。

Ｎ：神経質（Nervousness）
神経質、心配症、いらいらするなどの性質。

Ｏ：客観性がないこと（Lack of objectivity）
ありそうもないことを想像する、寝つかれないなどの空想性と過敏性である。

Ｃｏ：協調性のないこと（Lack of cooperativeness）
不満が多い、人を信用しないなどの不満性と不信性である。

Ａｇ：愛想のないこと（Lack of agreeableness）又は攻撃性（Aggressiveness）
気が短い、正しいと思うことは人にかまわず実行する、人の意見を聞きたがらない等の、攻撃的な性質。これが情緒不安定（Ｄ．Ｃ．Ｉ．Ｎ）と結合すると社会的不適応、喧嘩ずき、問

題を起こしやすい性格となる。一方、情緒安定性と結びつくと社会的活動性となる。したがって、この尺度の得点が高いことは良い場合と悪い場合とがあり、同様に得点が低すぎる場合も、良い場合と悪い場合があるから注意を要する。

G：一般的活動性（General activity）

仕事が速い、動作がきびきびしているなどの身体的な活動と、ほがらかな性質である。

R：のんきさ（Rhathymia）

人といっしょにはしゃぐ、いつも何か刺激を求めるなどの、気がるな、のんきな、衝動的な性質である。

T：思考的外向（Thinking extravertion）

深く物事を考える傾向がある。度々考えこむくせがあるなどによってあらわされる思索的傾向、瞑想的反省的傾向の逆方向の性質。考えが大ざっぱでのんきなたちのことである。この尺度の逆は思考的内向（Thinking introvertion）とよばれる。

A：支配性（Ascendance）

会やグループのために働く、引っ込み思案でないなどの、社会性リーダーシップのある性質で、その反対は服従性である。

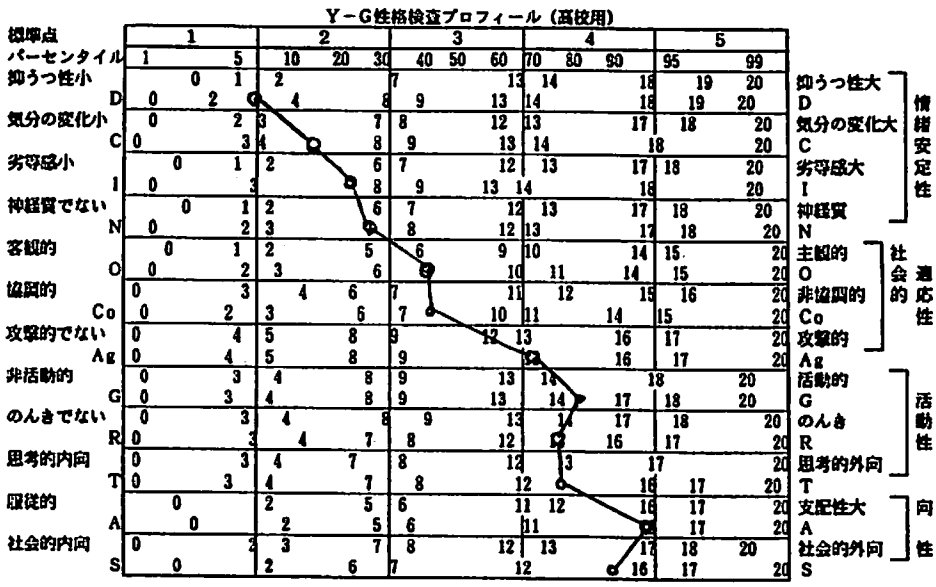
S：社会的外向（Social extravertion）

人との交際を好む、人と話をするのは好きであるなどの、社会的接触を好む傾向で、その反対の性格は社会的内向（Social introvetion）とよばれる。

② Y・G性格検査実施にさいして

この検査を中学生・高校生6学年全員を対象に実施した。その結果を採点、処理し、粗点をプロフィール欄に一人一人転記した。プロフィールは中学生用、高校生用の別があり、また各尺度は上段が男子で下段が女子である。

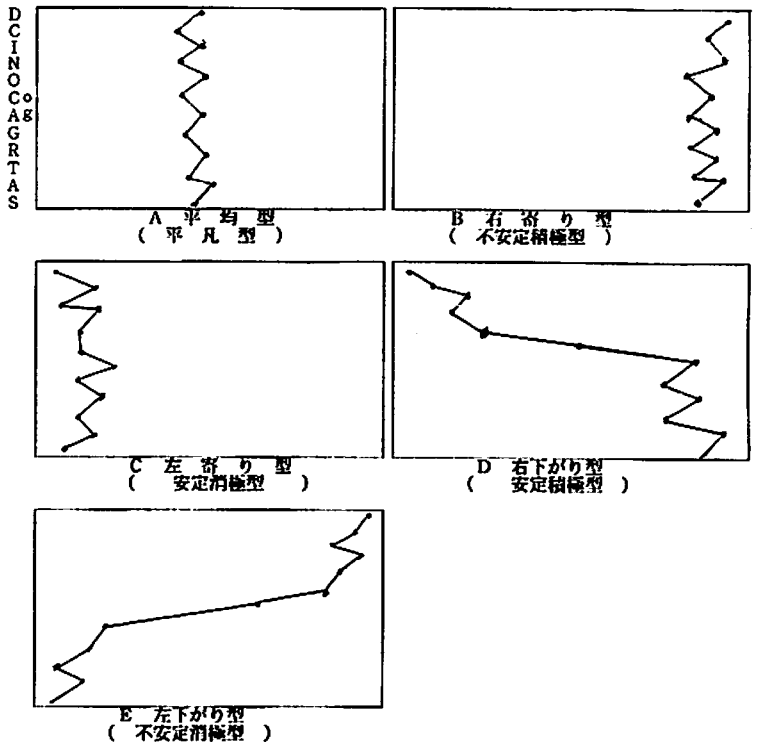
＜Y・G性格検査プロフィールの記入例＞



次にプロフィールの全体的な傾向を診断した。プロフィールには特に顕著な対部として5類型がある。

（Y・G性格検査プロフィールの類型）

尺度 タイプ	情緒安定性 DCIN	社会適応性 OCoAg	活動性・向性 GRTAS	備考
(A) 平均型	平均	平均	平均	平凡型
(B) 右寄り型	不安定	不適応	外向	不安定積極型
(C) 左寄り型	安定	適応	内向	安定消極型
(D) 右下がり型	安定	適応又は平均	外向	安定積極型
(E) 左下がり型	不安定	不適応又は平均	内向	不安定消極型



さて、このように分類した場合の各類型の性格は次のように概括できる。

A類（平均型）

これは全くすべての性格特性について平均的な状態を示す人で、万事につけて調和的適応的なタイプで積極的にこれといって診断を下しにくいタイプである。

B類（不安定積極型）

B型は情緒不安定、社会的不適応、活動的、外向的な人で、性格の不均衡が外へ現れやすい人で爆発的行動にでやすく、年少者においては、環境や素質面に不利な点が重なると非行的な傾向が強くなる。

C類（安定消極型）

この型の人は所謂おとなしい消極的な安定した、もの静かな人であるが、活動性がなく、内向的である点、注意を要する。

D類（安定積極型）

この型の人は最も理想的な人格の持主で、情緒的にも安定し、社会的適応力もよく、活動的で対人関係もうまくいくタイプであり、学校でも問題は少ない。

E類（不安定消極型）

この型はD型の反対で、情緒不安定、非活動的、内向的で、ノイローゼ傾向の強い人達である。学校でも問題傾向を示す。

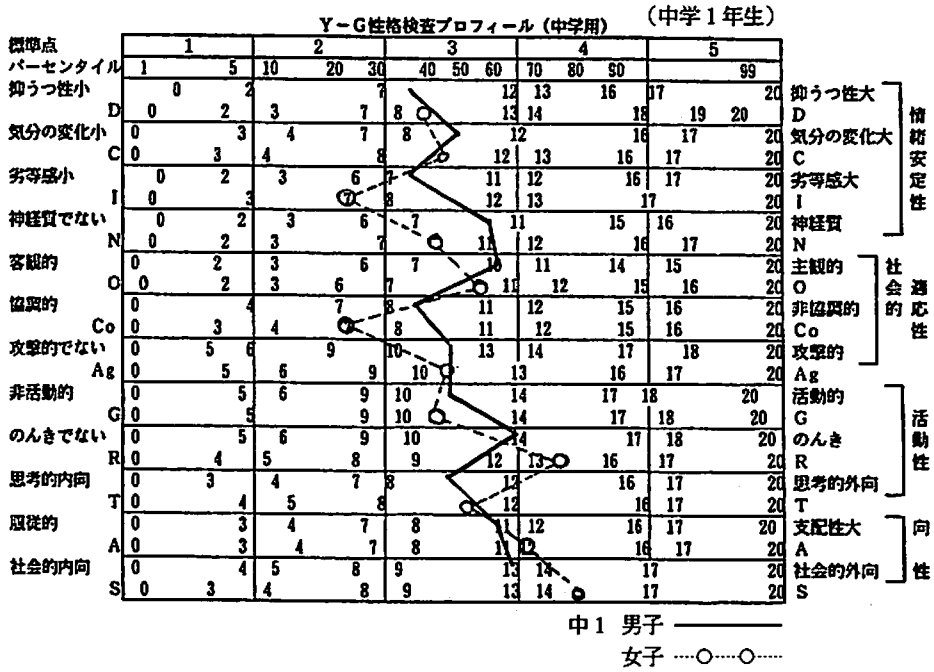
③　Y・G性格検査の結果

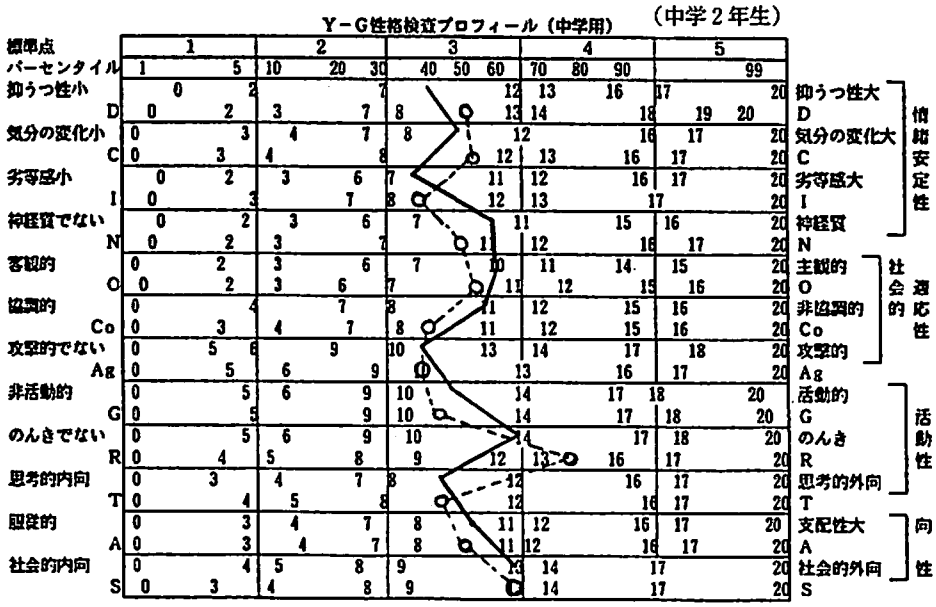
生徒一人一人のY・G性格検査の結果をプロフィールに記入し、その傾向を判定した。次に性格の学年別傾向、男女別傾向、中学・高校別の傾向を知りたいために、ひいては本校生徒の性格特性を知りたいために、大型コンピューターにそのすべての数値を入力し、それらの平均値と標準偏差を求めた。（表１）

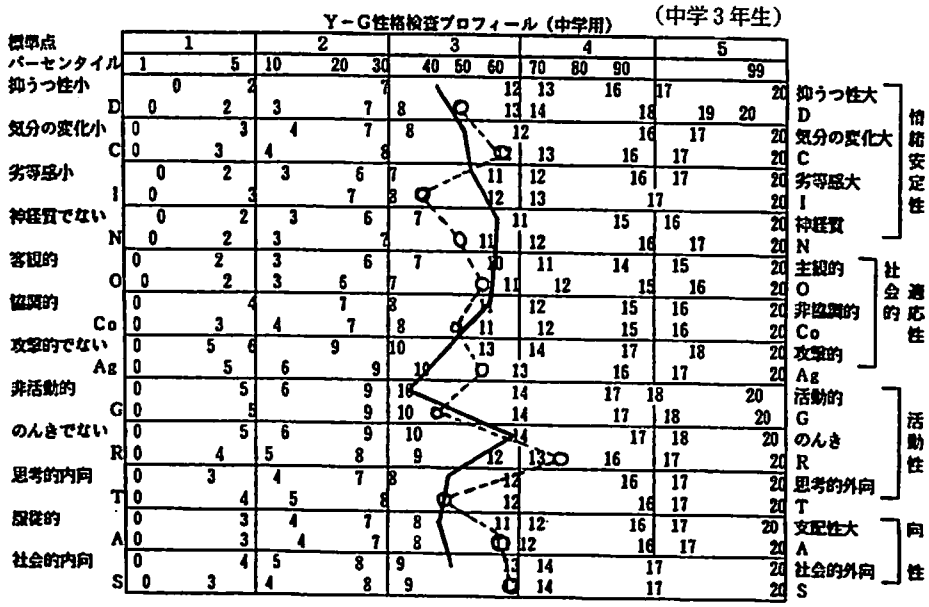
次にこれらの数値を学年別（中学１年〜高校３年）の男女別プロフィールに記入した。

ｉ）Y・G性格検査プロフィールの学年別、男女別の特徴

＜中学の部＞



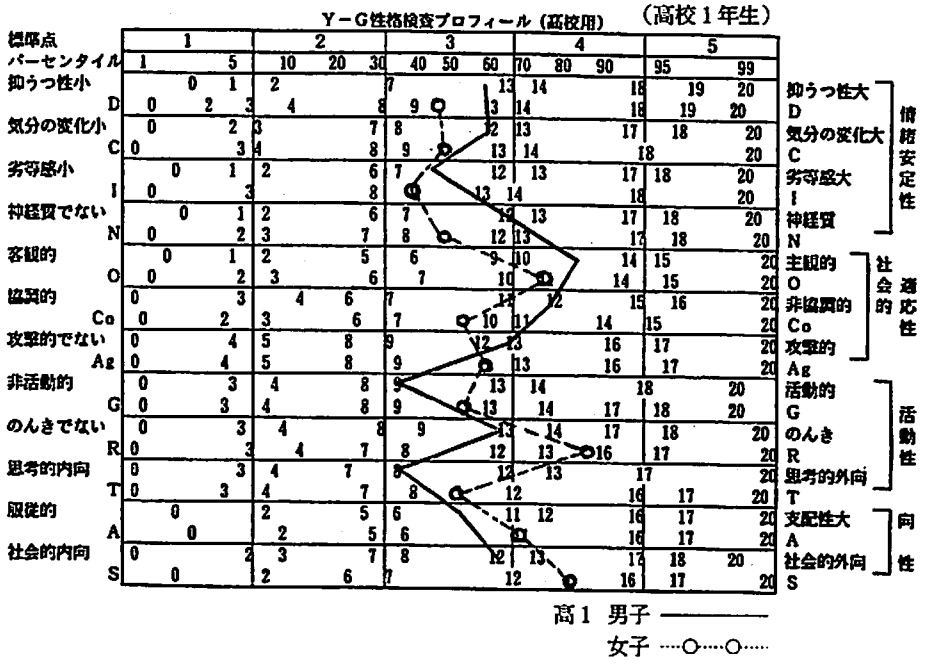

Y－G性格検査プロフィール（中学用）
（中学２年生）
標準点
パーセンタイル
抑うつ性小
気分の変化小
劣等感小
神経質でない
客観的
協調的
攻撃的でない
非活動的
のんきでない
思考的内向
服従的
社会的内向
D
C
I
N
O
Co
Ag
G
R
T
A
S
抑うつ性大
気分の変化大
劣等感大
神経質
主観的
非協調的
攻撃的
活動的
のんき
思考的外向
支配性大
社会的外向
情緒安定性
社会的適応性
活動性
向性
中２ 男子
女子

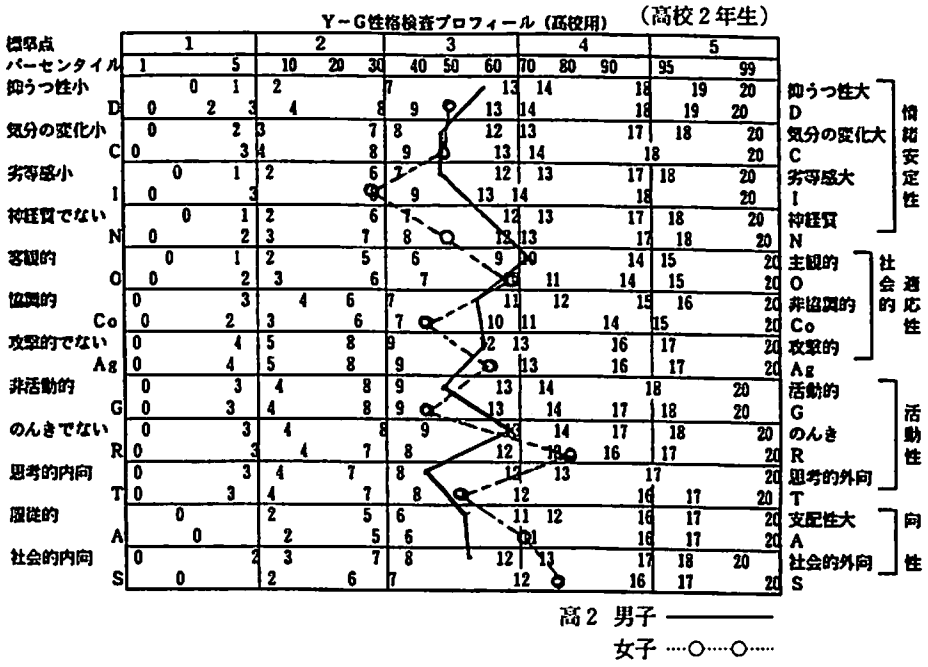

Y－G性格検査プロフィール（中学用）
（中学３年生）
標準点
パーセンタイル
抑うつ性小
気分の変化小
劣等感小
神経質でない
客観的
協調的
攻撃的でない
非活動的
のんきでない
思考的内向
服従的
社会的内向
D
C
I
N
O
Co
Ag
G
R
T
A
S
抑うつ性大
気分の変化大
劣等感大
神経質
主観的
非協調的
攻撃的
活動的
のんき
思考的外向
支配性大
社会的外向
情緒安定性
社会的適応性
活動性
向性
中３ 男子
女子

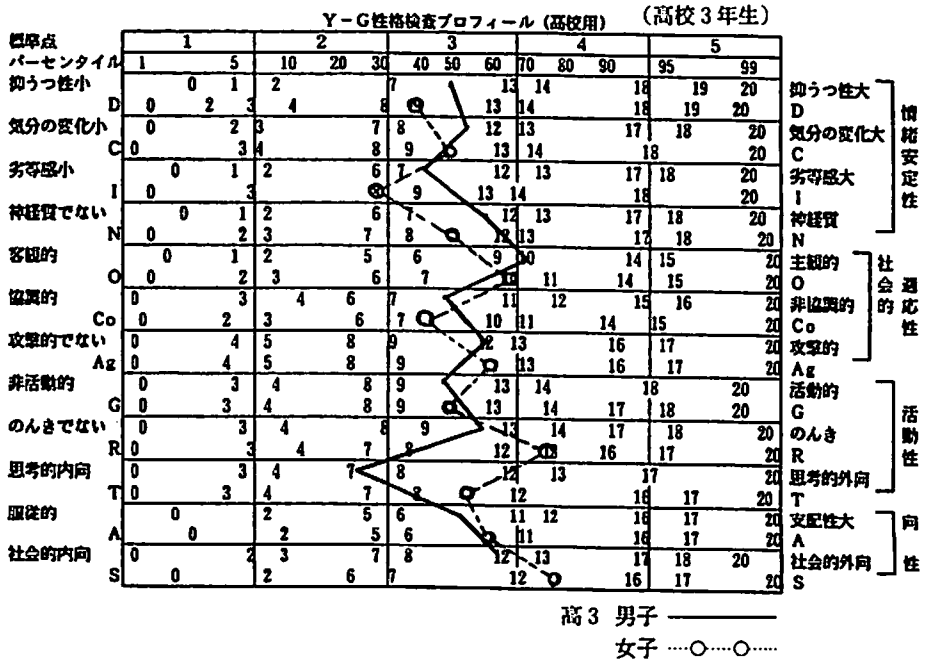
総じて女子のほうが外向的で積極的であるし社会的適応性にもすぐれている。特に中学１年生の女子のプロフィールは右下がり型に近く、安定積極型といえる。協調性に富み、劣等感も少なく、まとまりがあると言える。中学２年生が最も男女差が少なく、平均的である。中学３年生では男子の社会的内向性やリーダーシップがとれないこと、非活動的な面が中学最高学年として気になる点である。これは、２年前に入試改革として抽選制を大幅に減じたためとも思えるが（現中学１、２年生は一次、二次テストとも筆記テストが主体、一次と二次テストの間に５～10％程度抽選で落とされる。現中学３年生以降は一次で定員の３倍まで抽選、二次テストが筆記テスト主体の選抜）女性上位の学校ムードのなかで浸りきった中だるみ現象であるといえば言い過ぎだろうか。

高校では高校１年生女子がすべての特性で男子より優れているといえる。高校一年生男子の主観的、非協調性の特性が強いことはこの学年のまとまりにとって気になる点である。又、高校３年生男子の思考的内向の特性の項が目につくが、女子よりも将来の進路について深く考えざるを得ない周囲の状況もプレッシャーとなっているのかもしれない。また、高校２年生男子が最も特性の変化が少なく、これといった特徴が挙げにくい。

＜高校の部＞

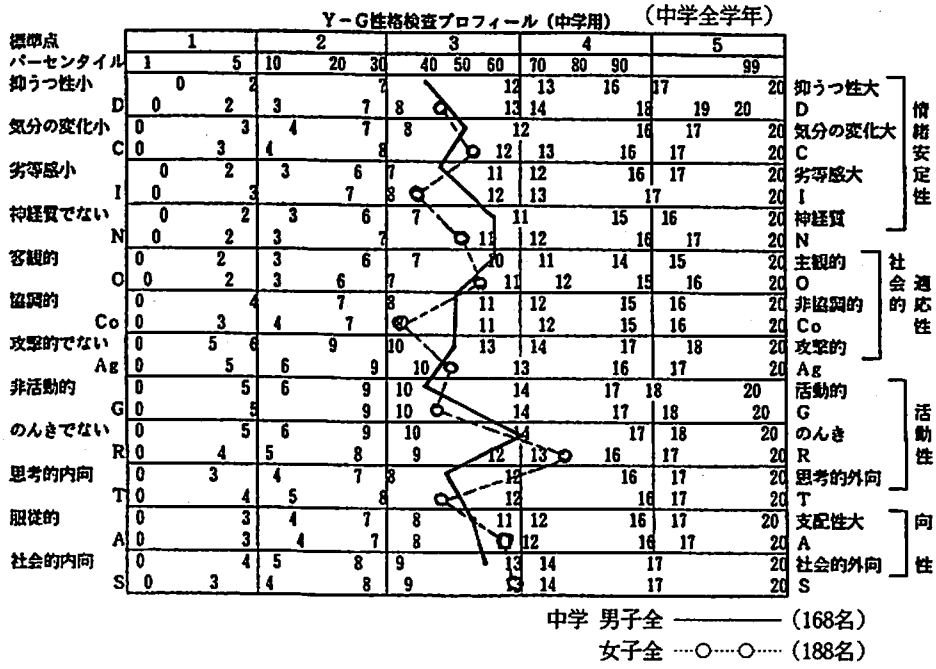


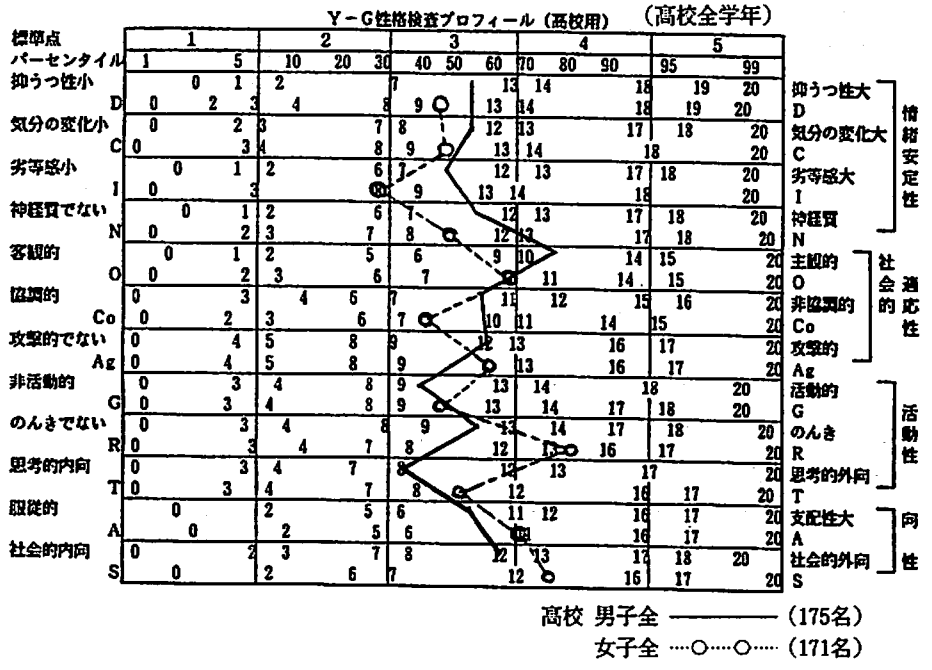

Y－G性格検査プロフィール（高校用）
（高校２年生）
標準点
パーセンタイル
抑うつ性小 D
気分の変化小 C
劣等感小 I
神経質でない N
客観的 O
協調的 Co
攻撃的でない Ag
非活動的 G
のんきでない R
思考的内向 T
服従的 A
社会的内向 S
抑うつ性大 D
気分の変化大 C
劣等感大 I
神経質 N
主観的 O
非協調的 Co
攻撃的 Ag
活動的 G
のんき R
思考的外向 T
支配性大 A
社会的外向 S
情緒安定性
社会的適応性
活動性
向性
高２ 男子
女子


Y－G性格検査プロフィール（高校用）
（高校３年生）
標準点
パーセンタイル
抑うつ性小 D
気分の変化小 C
劣等感小 I
神経質でない N
客観的 O
協調的 Co
攻撃的でない Ag
非活動的 G
のんきでない R
思考的内向 T
服従的 A
社会的内向 S
抑うつ性大 D
気分の変化大 C
劣等感大 I
神経質 N
主観的 O
非協調的 Co
攻撃的 Ag
活動的 G
のんき R
思考的外向 T
支配性大 A
社会的外向 S
情緒安定性
社会的適応性
活動性
向性
高３ 男子
女子

ii）Y・G性格検査プロフィールの中学・高校別、男女別の特徴

次に中学・高校別に、男女別の各特性について平均値と標準偏差を求めた。（表２）これらの結果をもとに中学・高校別の男女別プロフィールを作成した。





中学では女子の方が社会的に外向で人づきあいもよく、支配性も高くリーダーシップをとり、のんきで余裕がみられる。人と協調でき、劣等感も少なく神経質の傾向も男子に比べ弱いといえる。高校になると、この傾向の拍車がかかり、総ての面で（情緒安定性、社会適適応性、活動性向性）男子を凌駕すると言える。これは一体どこに原因があるのだろうか。

本校はいわゆる進学校ではないが、県内には男子進学校として私立中・高一貫教育が数校あり、上澄みがとられた結果、性格の特性の面でもこの事が影響しているのであろうか。それとも現代社会一般の風潮としての『女の時代』が反映されているのだろうか。いかにも女がイキイキ、男が萎縮しているように思えてならない。

中・高のプロフィールをまとめて概括してみると、本校付属校生の特徴として、社会的に外向的でのんきで、やや主観的な点があげられる。また男子にリーダーがほとんどいないことは自主性を重んじる本校の校風にとっても由々しき問題であり、今後の教師側の具体的対応がのぞまれる。

〈表２〉 Ｙ・Ｇ性格検査の中・高別、男女別の平均と標準偏差（各特性別）

中高男女別	対象数	項目	S	A	T	R	G	Ag	Co	O	N	I	C	D
中学男	168	平均	12.3155	9.7500	9.7381	13.8988	11.1488	11.8631	10.2798	9.8333	9.7976	8.7857	10.1429	9.0119
		標準偏差	3.835	3.895	4.265	3.966	3.959	3.605	4.151	4.221	4.772	4.824	4.288	5.338
中学女	188	平均	13.3404	10.9574	10.4734	14.1968	10.7926	11.2872	8.4043	10.1968	9.6915	8.6702	11.2606	9.9840
		標準偏差	3.912	3.865	4.375	3.954	3.728	3.799	4.082	3.949	4.723	4.528	4.331	5.211
高校男	175	平均	11.9429	9.0400	8.0229	12.6686	10.4114	12.4229	10.3943	10.6800	11.1029	8.7486	11.1429	11.2000
		標準偏差	4.704	4.820	4.437	4.554	4.809	4.390	4.512	4.401	5.132	5.129	4.548	5.521
高校女	171	平均	13.4327	10.8246	10.1930	13.8713	10.7251	11.9942	8.3158	10.3684	10.1170	8.1520	10.9357	10.2690
		標準偏差	4.194	4.461	4.705	4.407	3.981	4.259	4.087	3.724	4.726	4.665	4.648	5.310

Ⅲ．ＣＡＳ不安診断検査（California Anxiety Scale）について

① この検査についての理解

ＣＡＳ不安診断検査はキャテルの長年にわたる多くの研究にもとずいて作られた不安の測定尺度で、臨床診断を補うための、また、研究や調査のために用いられる簡素な質問紙法として現在、得られるもののうち、最もすぐれたものと考えられている。

≪例≫

1．人に対する気持ちや物事についての興味が変わりやすい。　はい　いいえ　？

16．ふだんは床につくとすぐ眠れる。　はい　いいえ　？

質問項目は40で、この検査によって測定される不安の因子は５つあり、どのようなものかを次に簡単に説明する。

〈表1〉 Y・G性格検査の各特性の学年別・男女別の平均と標準偏差

YGのDについての学年別男女別の平均と標準偏差

D	対象		平均		標準偏差	
	男	女	男	女	男	女
1年	55	62	8.2727	8.6613	5.053	5.096
2年	58	61	9.3793	10.4590	5.622	5.557
3年	55	65	9.3636	10.8000	5.328	4.800
4年	58	58	12.3621	10.0517	5.297	5.056
5年	56	60	11.6071	10.8167	5.419	5.667
6年	61	53	9.7213	8.8868	5.580	5.213

YGのCについての学年別男女別の平均と標準偏差

C	対象		平均		標準偏差	
	男	女	男	女	男	女
1年	55	62	10.0182	10.2903	4.035	4.244
2年	58	61	9.9483	11.1639	4.632	4.255
3年	55	65	10.4727	12.2769	4.216	4.325
4年	58	58	12.2241	11.3448	4.341	4.274
5年	56	60	10.3750	10.7000	4.555	4.699
6年	61	53	10.8197	10.7547	4.613	5.026

YGのIについての学年別男女別の平均と標準偏差

I	対象		平均		標準偏差	
	男	女	男	女	男	女
1年	55	62	8.4727	7.1613	4.906	4.484
2年	58	61	8.3966	9.4918	4.906	4.272
3年	55	65	9.5091	9.3385	4.658	4.508
4年	58	58	9.0690	8.6897	5.126	4.317
5年	56	60	9.2143	8.0667	5.430	5.197
6年	61	53	8.0164	7.6604	4.342	4.416

YGのNについての学年別男女別の平均と標準偏差

N	対象		平均		標準偏差	
	男	女	男	女	男	女
1年	55	62	9.6364	8.6613	4.859	4.708
2年	58	61	9.7069	10.1475	4.750	4.795
3年	55	65	10.0545	10.2462	4.786	4.579
4年	58	58	11.9828	10.4655	5.401	4.721
5年	56	60	10.5714	9.9667	5.009	5.079
6年	61	53	10.7541	9.9057	4.952	4.373

YGのOについての学年別男女別の平均と標準偏差

O	対象		平均		標準偏差	
	男	女	男	女	男	女
1年	55	62	10.1455	9.8065	4.335	3.789
2年	58	61	9.7414	10.2787	4.245	4.424
3年	55	65	9.6182	10.4923	4.139	3.645
4年	58	58	11.5862	11.0345	4.397	3.020
5年	56	60	10.1607	10.3667	4.203	3.991
6年	61	53	10.2951	9.6415	4.518	4.029

YGのCoについての学年別男女別の平均と標準偏差

Co	対象		平均		標準偏差	
	男	女	男	女	男	女
1年	55	62	9.4727	7.3065	4.281	3.890
2年	58	61	10.6034	9.2951	4.155	4.458
3年	55	65	10.7455	9.5538	3.968	3.619
4年	58	58	11.8103	8.8448	4.766	4.380
5年	56	60	10.2321	8.1833	4.632	4.261
6年	61	53	9.1967	7.8868	3.790	3.528

〈表1〉 のつづき

ＹＧのAgについての学年別男女別の平均と標準偏差

Ag	対象		平均		標準偏差	
	男	女	男	女	男	女
1年	55	62	12.2182	11.4032	3.828	3.809
2年	58	61	11.4483	10.3279	3.853	3.340
3年	55	65	11.9455	12.0769	3.088	4.044
4年	58	58	12.7931	11.9828	4.625	4.621
5年	56	60	12.0179	12.1167	4.313	3.728
6年	61	53	12.4426	11.8679	4.268	4.481

ＹＧのＧについての学年別男女別の平均と標準偏差

G	対象		平均		標準偏差	
	男	女	男	女	男	女
1年	55	62	11.5455	11.3065	4.077	4.241
2年	58	61	11.8966	10.5246	3.914	3.659
3年	55	65	9.9636	10.5538	3.672	3.245
4年	58	58	9.2586	11.2931	4.829	4.138
5年	56	60	10.7143	10.0667	4.405	3.982
6年	61	53	11.2295	10.8491	5.008	3.764

ＹＧのＲについての学年別男女別の平均と標準偏差

R	対象		平均		標準偏差	
	男	女	男	女	男	女
1年	55	62	14.2182	14.2258	4.063	4.614
2年	58	61	13.9138	14.0492	3.696	3.519
3年	55	65	13.5636	14.3077	4.184	3.708
4年	58	58	12.8966	14.5862	4.537	3.756
5年	56	60	12.7321	13.5833	4.685	4.389
6年	61	53	12.3934	13.4151	4.510	5.029

ＹＧのＴについての学年別男女別の平均と標準偏差

T	対象		平均		標準偏差	
	男	女	男	女	男	女
1年	55	62	9.7818	10.5645	3.745	4.314
2年	58	61	9.7759	9.9344	4.608	4.276
3年	55	65	9.6545	10.0154	4.452	4.547
4年	58	58	7.7931	10.3448	4.086	4.537
5年	56	60	9.0179	10.0000	4.700	4.618
6年	61	53	7.3279	10.2453	4.419	5.053

ＹＧのＡについての学年別男女別の平均と標準偏差

A	対象		平均		標準偏差	
	男	女	男	女	男	女
1年	55	62	10.6909	12.4355	3.490	3.542
2年	58	61	9.6207	9.9344	4.103	3.731
3年	55	65	8.9455	10.5077	3.922	3.914
4年	58	58	9.1379	11.2586	5.073	4.387
5年	56	60	9.2143	10.7333	4.560	4.399
6年	61	53	8.7869	10.4528	4.875	4.652

ＹＧのＳについての学年別男女別の平均と標準偏差

S	対象		平均		標準偏差	
	男	女	男	女	男	女
1年	55	62	13.2182	14.6935	3.919	3.856
2年	58	61	12.5000	12.8033	3.614	3.741
3年	55	65	11.2182	12.5538	3.775	3.841
4年	58	58	11.8966	14.1034	4.667	3.999
5年	56	60	11.4643	13.0000	4.895	4.071
6年	61	53	12.4262	13.1887	4.588	4.515

〈ＣＡＳの不安因子〉

$Q_3^{(-)}$：人格統御力の欠如、または自我感情の発育不全（Defective integration or lack of self sentiment development）

自我感情を吟味する意識や、社会的基準によって自己の行動を統御してゆこうとするモティベーションの不足を示す。すなわち、この得点の低いものは、自己統御力にとみ、高いものはそれが乏しい。このような統御力の不足が不安の原因の一つになると考えられている。

$C^{(-)}$：自我の弱さ（Ego weakness or lack of ego strength）

欲求不満によって起きた緊張を統御し、現実にふさわしい方法で表現する能力の不足を現す。したがって、この得点の高いものは情緒的に不安定であり、低いものは成熟した性格を示す。

Ｌ：疑い深さ、又はパラノイド型の不安定性（Suspiciousness or paranoid type insecurity）

この得点の高いものは、疑い深い、嫉妬心が強いなどのパラノイド的な傾向を示し、低い方は、人を信じる、順応しやすいなどの特性を示す。

Ｏ：罪悪感（Guilt pronenss）

無価値感、憂鬱感、罪悪感をふくむ因子で、その低い方向は、自信がある、順応性にとむなどという特色をもつ。

Q_4：欲求不満による緊張、または衝動による緊迫状態（Frustration tension or id pressure）

この得点の高いほうは、衝動による緊張感が高く、興奮しやすい、怒りっぽい、神経質などの傾向をあらわし、低い方は、粘着質である。落ち着いているなどの特色を示す。

② ＣＡＳ不安診断検査実施にさいして

この検査も中・高６学年全員を対象に実施した。その結果を採点し、粗点を中学用、高校用の男女別換算表によって10段階標準得点に換算した。標準得点は、粗点の度数分布を正規化し、10段階に分けたもので、平均5.5、１段階は標準偏差の２分の１である。

〈得点の解釈〉　不安得点（標準得点）は次のように解釈される。

10, 9, 8 ―不安やその他、精神衛生上に特に留意すること。

7　不安が普通より高いのでよく注意してゆく必要がある。

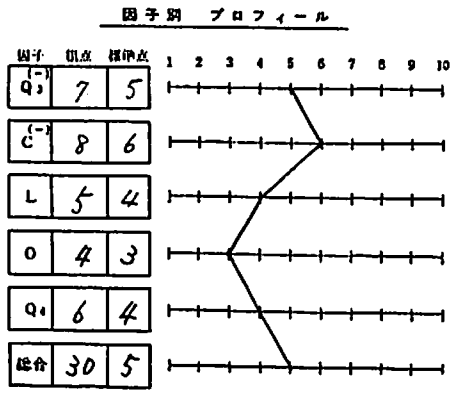
6, 5, 4 ―不安に関しては正常である。精神健康度からみて、普通の仕事に耐えられる人の得点である。

3, 2, 1 ―精神的に特に安定している。のんびりしたモティベーションの乏しい場合もある。危険や特殊な緊張を伴う職業にも耐えうる。

③ ＣＡＳ不安診断検査の結果

生徒一人一人のＣＡＳ不安診断検査の結果をＣＡＳ因子別プロフィールに記入し、その傾向を判定した。

ＣＡＳ因子別プロフィール記入の例



高校生【男子用】

換　算　表

因子＼標準得点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
$Q_3^{(-)}$ 自我統御力欠除	0～1	2～3	4～5	6	7～8	9～10	11～12	13～14		15～16
$C^{(-)}$ 自我の弱さ	0～1	2	3～4	5	6～7	8～9	10～11	12～13	14	15～16
L パラノイド傾向	0～1	2	3	4～5	6～7	8～9	10	11～12	13	14～16
O 罪悪感	0～1	2～3	4～5	6～8	9～10	11～12	13～14	15	16	
Q_4 衝動による緊迫	0～1	2～3	4	5～6	7～8	9～10	11～12	13	14～15	16
総得点（不安点）	0～11	12～16	17～22	23～28	29～34	35～40	41～46	47～52	53～57	58～80

高校生【女子用】

因子＼標準得点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
$Q_3^{(-)}$ 自我統御力欠除	0～2	3	4～5	6	7～8	9～10	11～12	13～14	15	16
$C^{(-)}$ 自我の弱さ	0～1	2～3	4	5～6	7～8	9	10～11	12～13	14～15	16
L パラノイド傾向	0～1	2	3	4～5	6～7	8～9	10～11	12	13～14	15～16
O 罪悪感	0～4	5～6	7～8	9～10	11～12	13	14	15	16	
Q_4 衝動による緊迫	0～1	2～3	4～5	6～7	8	9～10	11～12	13～14	15	16
総得点（不安点）	0～14	15～20	21～25	26～31	32～37	38～43	44～49	50～54	55～60	61～80

次に本校全生徒の不安傾向を知るために、Y・G性格検査と同じようにそれぞれの数値を大型コンピューターにインプットし、それらの平均値と標準偏差を求めた。(表3)

そして、CAS因子別プロフィールの学年別(中学1年〜高校3年)の男女別にまとめた。

i)CAS因子別プロフィールの学年別(中学1年〜高校3年)男女別の結果の特徴

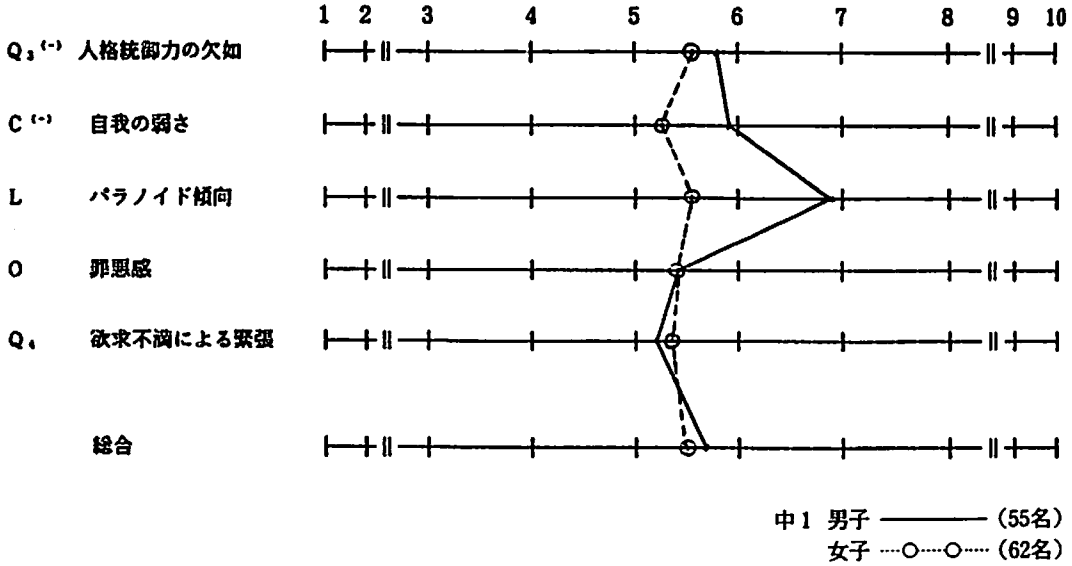
中学ではY・G性格検査の結果と同様、中学1年生の女子が最も不安傾向が少なく安定しているのに、中学1年生男子は疑い深く、嫉妬心が強いなどのパラノイド傾向が女子に比してつよい。中学2年、3年生では、総じて女子の方がやや不安傾向が強い。特に中学3年生ではほとんどすべての因子において女子の方が強い。しかも中学3年生が中学段階では不安傾向が強い。

しかし、高校になると、高校1年生では、女子はすべての因子で男子よりも不安傾向が少なく、安定している。高校2年生でも一つの因子を除いて(Q_4欲求不満による緊張)女子は男子よりも不安定傾向が少なく、やっと高校3年生で男女差に大きな差がみられなくなる。

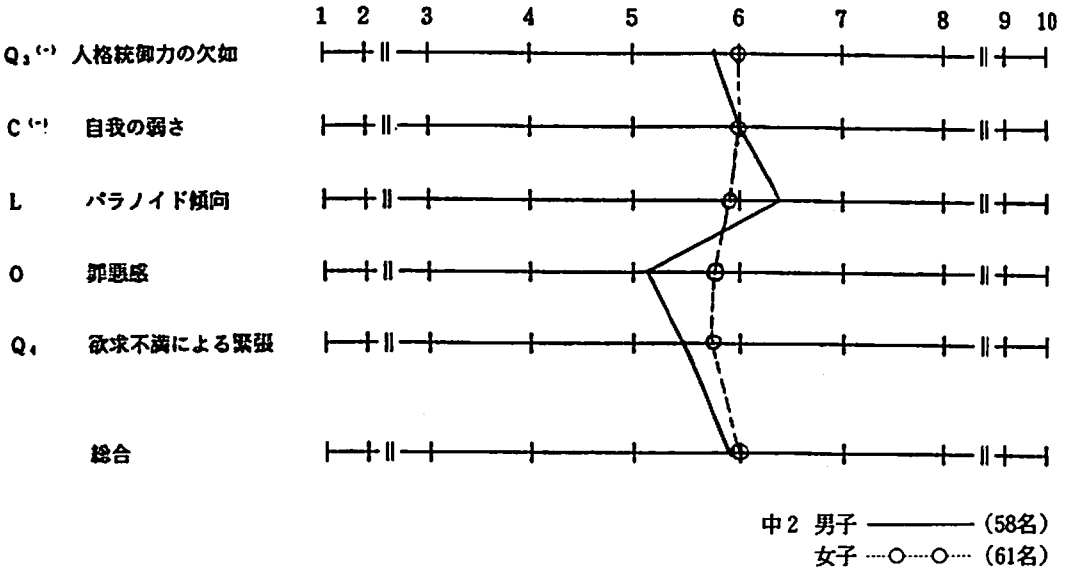
進路決定や受験を控えた高校3年生男子の不安傾向が高校1、2年生の男子に比べて少ないという現象がみられるのは一体どうしてなのか。高校1年生、高校2年生としてのこの学年の特徴なのか。それとも、将来の進路や目標がはっきりさだまらない、ちゅうぶらり状態におかれているからだろうか。このことは、女子の不安傾向が中学3年生で最も強くでているのに、高校になると急に弱まっているのと好対象である。以上のことは、一般的に言って、自我形成の発達や人格統御力が、女子の方が男子に比して、早い時期にあらわれることからも推察できるが、高校生になると女子は学年での差がほとんどなくなり、安定感が増す。

<中学の部>

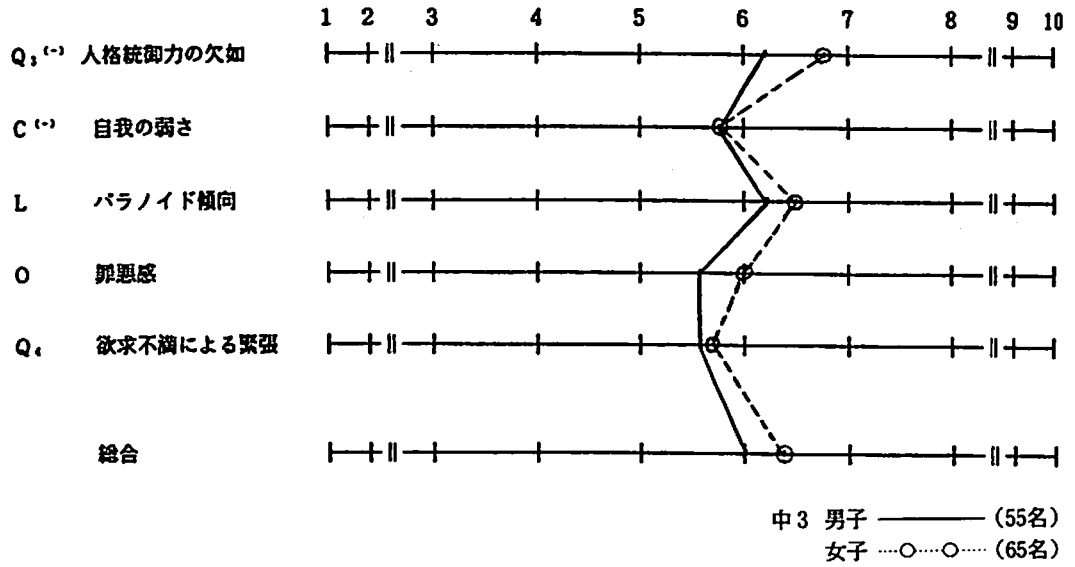
CAS因子別プロフィール (中学1年生)



ＣＡＳ因子別プロフィール　（中学２年生）

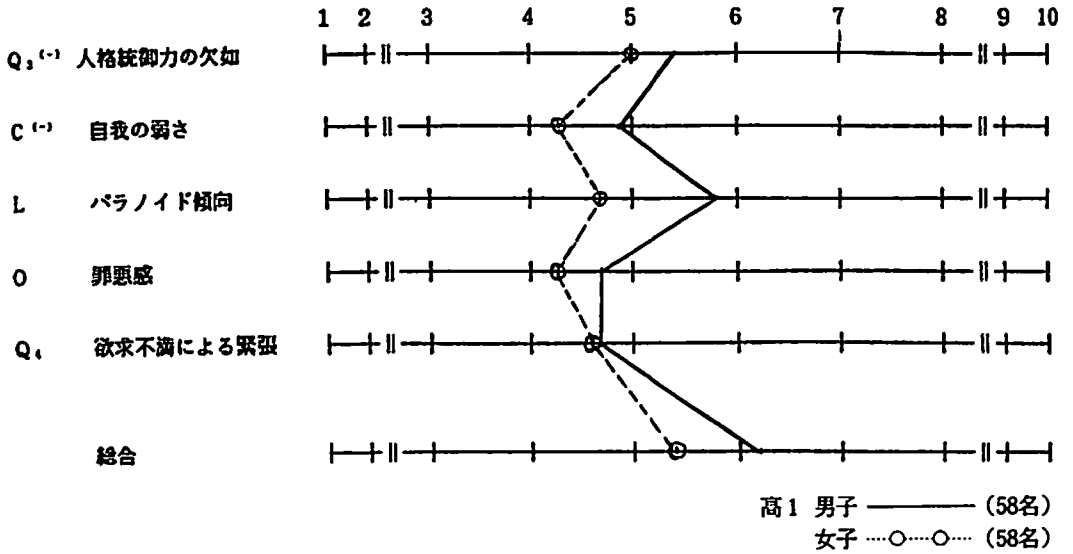


ＣＡＳ因子別プロフィール　（中学３年生）

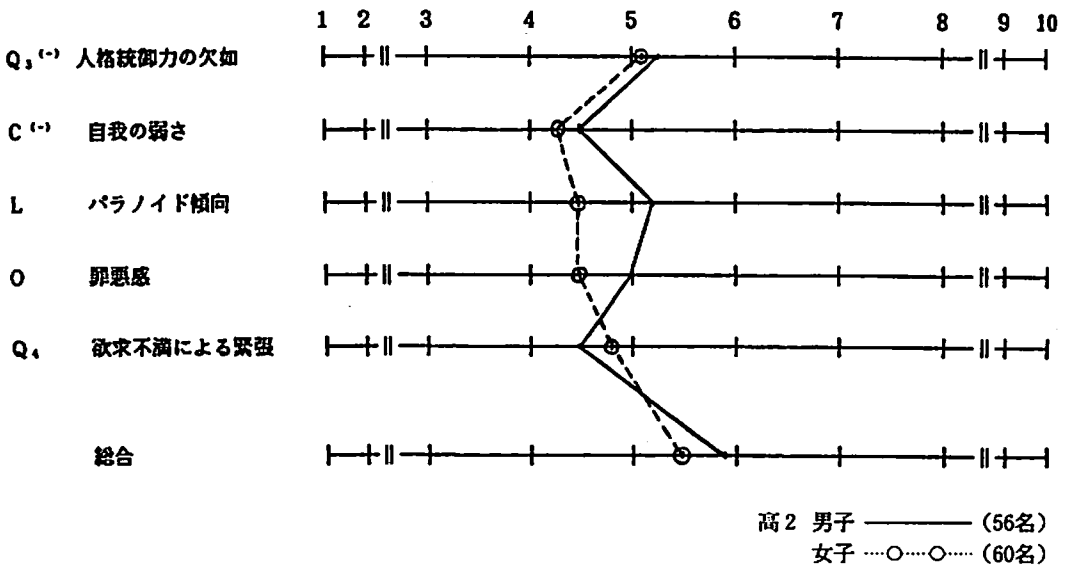


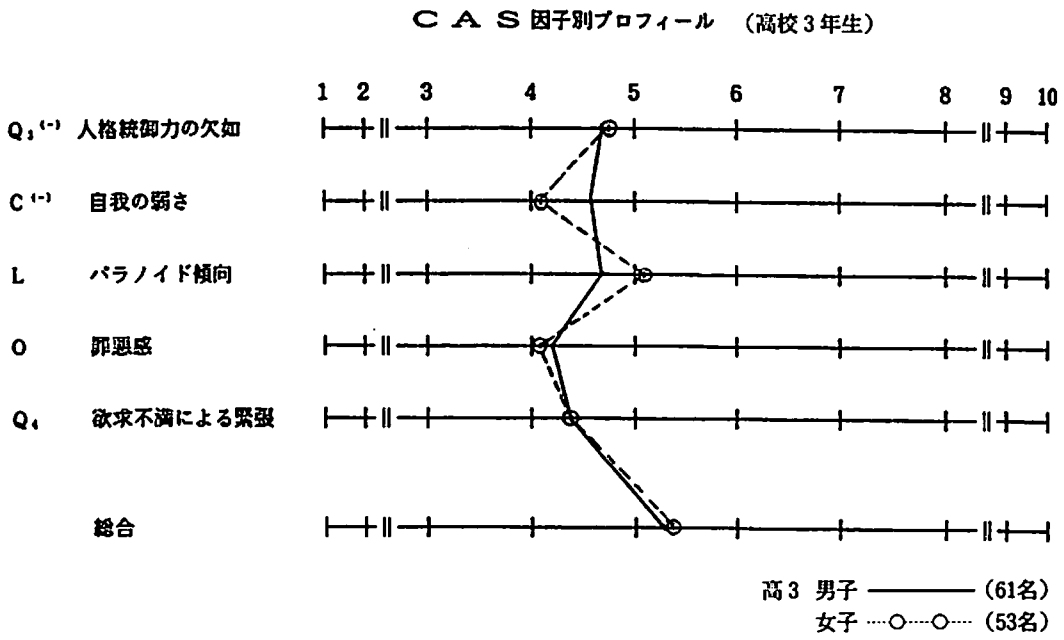
<高校の部>

C A S 因子別プロフィール （高校1年生）



C A S 因子別プロフィール （高校2年生）





次に中学・高校別に男女別の各因子について平均値と標準偏差をもとめた。（表４）これらの結果をもとに中学・高校別の男女別ＣＡＳプロフィールを作成した。

〈表４〉　ＣＡＳ不安診断検査の各因子についての中学・高校別、男女別の平均と標準偏差

		平均						標準偏差					
中高・男女別	対象	$Q_3^{(-)}$	$C^{(-)}$	L	O	Q_4	総計	$Q_3^{(-)}$	$C^{(-)}$	L	O	Q_4	総計
中学男	168	5.9405	5.9167	6.3750	5.3571	5.4107	5.8869	2.035	2.007	2.017	1.965	1.922	2.060
中学女	188	6.1755	5.7074	5.9840	5.7394	5.6277	5.9840	2.088	1.936	2.025	1.907	1.932	2.054
高校男	175	5.1143	4.6629	5.2057	4.6514	4.5600	5.7600	1.988	2.058	2.145	1.497	1.940	2.090
高校女	171	4.9883	4.2339	4.7135	4.2865	4.6257	5.4094	2.164	2.129	2.048	1.975	1.970	2.108

〈表3〉

CASの項目Qについての平均と標準偏差

Q_3^{57}	対象数		平均		標準偏差	
	男	女	男	女	男	女
1年	55	62	5.7818	5.6452	1.812	2.174
2年	58	61	5.8103	6.0328	2.098	1.975
3年	55	65	6.2364	6.8154	2.177	1.968
4年	58	58	5.3793	4.9655	2.126	2.094
5年	56	60	5.2857	5.1333	1.961	2.480
6年	61	53	4.7049	4.8491	1.878	1.865

CASの項目Cについての平均と標準偏差

C_2^{-7}	対象数		平均		標準偏差	
	男	女	男	女	男	女
1年	55	62	5.9091	5.2742	2.030	2.058
2年	58	61	6.0345	6.0656	1.816	1.905
3年	55	65	5.8000	5.7846	2.198	1.790
4年	58	58	4.8621	4.2759	1.914	2.093
5年	56	60	4.5357	4.3000	1.858	2.367
6年	61	53	4.5902	4.1132	2.362	1.908

CASの項目Lについての平均と標準偏差

L	対象数		平均		標準偏差	
	男	女	男	女	男	女
1年	55	62	6.9091	5.5645	1.794	1.807
2年	58	61	6.3966	5.8852	2.068	2.098
3年	55	65	6.2182	6.4769	2.192	2.077
4年	58	58	5.7759	4.6724	2.111	1.751
5年	56	60	5.2143	4.4667	2.016	2.381
6年	61	53	4.6557	5.0943	2.182	1.914

CASの項目Oについての平均と標準偏差

O	対象数		平均		標準偏差	
	男	女	男	女	男	女
1年	55	62	5.3818	5.4032	1.871	1.644
2年	58	61	5.1207	5.8033	1.965	2.056
3年	55	65	5.5818	6.0000	2.061	1.976
4年	58	58	4.8276	4.2759	1.656	1.963
5年	56	60	4.9653	4.4667	1.401	2.167
6年	61	53	4.1967	4.0943	1.327	1.768

CASの項目Q_4についての平均と標準偏差

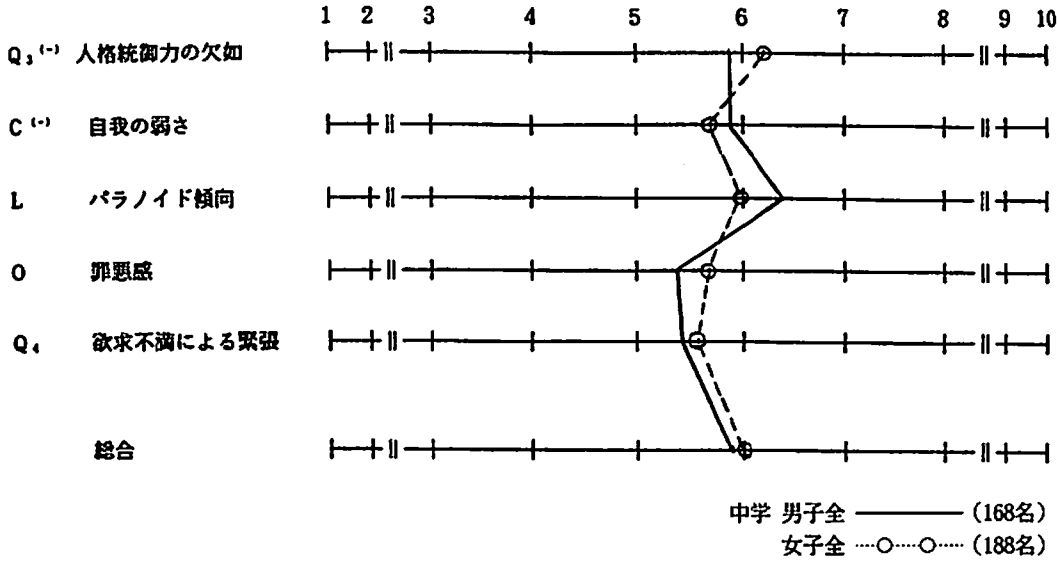
Q_4	対象数		平均		標準偏差	
	男	女	男	女	男	女
1年	55	62	5.1636	5.4032	1.664	2.004
2年	58	61	5.4828	5.7541	1.931	2.134
3年	55	65	5.5818	5.7231	2.149	1.654
4年	58	58	4.7586	4.6034	2.055	1.825
5年	56	60	4.5179	4.8167	1.868	2.244
6年	61	53	4.4098	4.4340	1.909	1.803

CASの項目総計についての平均と標準偏差

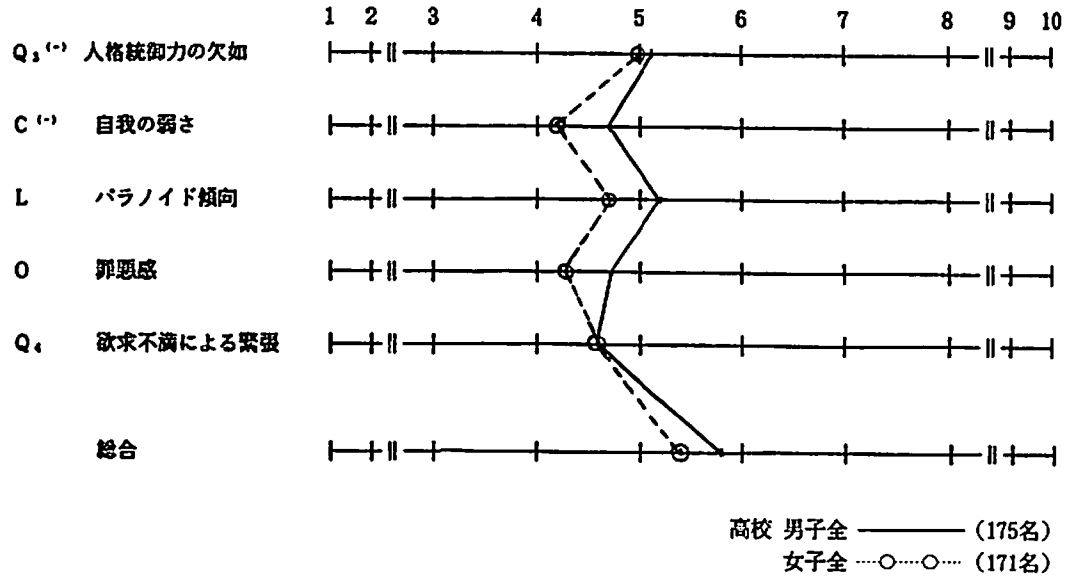
総計	対象数		平均		標準偏差	
	男	女	男	女	男	女
1年	55	62	5.7455	5.4677	1.828	1.973
2年	58	61	5.8966	6.0328	2.075	2.213
3年	55	65	6.0182	6.4308	2.281	1.887
4年	58	58	6.1897	5.3793	2.106	2.007
5年	56	60	5.8571	5.4833	2.031	2.453
6年	61	53	5.2623	5.3585	2.057	1.809

ii）ＣＡＳ因子別プロフィールの中学・高校別、男女別の結果の特徴

ＣＡＳ因子別プロフィール　（中学全学年）



ＣＡＳ因子別プロフィール　（高校全学年）



不安傾向は中学では男女でほとんど差がなく、高校よりも強く現れている。これは未だ自我形成力や人格統御力が弱く、高校生よりも未熟で、中途半端な段階にあるといえる。一方、高校になると精神的に落ち着き、女子にその傾向が強くあらわれ、ほとんどの因子で女子の方が男子よりも不安傾向が弱く、安定性が見られる。女子の精神的成熟の発達の時期が1、2年早いことがわかる。

Ⅳ. クラブ活動の所属の形態と性格特性について

次に、奈良女子大学の丹羽教授の示唆により、上記の全ての結果をクラブ別に分析した。運動部や文化部に所属している生徒のほうが集団に属しているし、日々の学習以外になんらかの活動を行っているので、性格特性にもその影響がみられ、不安傾向も弱いのではないかという予想をたてたのである。

① クラブ所属別のY・G性格検査の結果とそのプロフィール

生徒がどのクラブに所属しているかについては、生徒指導部のクラブ登録名簿を参考にした。なお高校3年生については、センター試験の実施時期の影響が強くほとんどの生徒が高校2年生終了の段階でクラブ活動を断念するため（特に運動クラブ）、高校2年時までの活動記録を実績とした。また、全校生徒700余名の小規模な構成のため、実質的に誰がどのクラブに属しているか、どの程度、活動しているのかなどについてはおおざっぱであるがとらえられている。

表5、6をみてみると各クラブ成員数から、文化部の衰退が一目でわかる。特に男子に著しく中学2名（調査人数168名中）高校7名（同175名中）のみである。（女子でも中学47名、高校26名）これは全国的な現象で、集団グループとして、文化的な関心や趣味の領域で共に活動や研究を通して、喜びや達成感を享受する経験にめぐまれない現代っ子の一側面の現れといえる。

225〜226ページの4つのプロフィールをみると、中学男子ではクラブに属している生徒、特に運動部に所属している生徒の方が安定積極型といえる。C_2（文化部所属）、C_3（文化部・運動部とも所属）の生徒数はわずかに2名のため比較の対象とはならないが、一つの資料として提示した。しかし各成員数にかなりのばらつきがあるため（C_1運動部所属135名、C_4無所属29名）単純に比較することは正確さに欠けるので注意すべきである。

中学女子ではクラブ所属の有無がほとんど性格特性に影響をあたえていない。これも中学男子と同様、各成員数に大きなばらつきがあるため（C_1 115名、C_2 47名、C_3 7名、C_4 19名）単純に比較はできない。しかし、個別にみた場合、運動部所属の女子は“のんきさ”が目立っている。

高校男子では運動部に所属している生徒（C_1 85名）は、ほぼすべての面で無所属の生徒（C_4 71名）よりも安定積極型であるといえる。特に社会的外向の特性が目につく。運動部・文化部とも所属の生徒（C_3 12名）の生徒が内向的で社会的不適応が強く、情緒も安定していないいわゆる不安定型消極型なのは何故か。2つのクラブに属し、より精力的であるべきはずであるのに。この生徒達をしらべてみると、大半がワンダーフォーゲル部と写真部の所属者とわかった。ワンダーフォーゲル部は活動の時期がほぼ1年の前半に集中しているし、写真部は集団よりも個々人の裁量によって活動に自由がきくため、両立しやすいと思われる。集団での激しい練習や活動が必要なクラブというよりも、むしろ一人でもできる趣味的なクラブともいえる。（顧問からお叱りをうけるかもしれないが）自分の世界にとりこもりがちな生徒がたまたま集まったのかもしれないが、この生徒達には性格的な面で指導に注意が必要である。

高校女子を見ると運動部に属している生徒（C_1 77名）は、無所属の生徒（C_4 60名）に比べ、

外向的でのんきで活動的で、強調性に富んではいるが、情緒安定性の面ではさしたる差は見られない。文化部所属の生徒（C_3 26名）はすべての特徴で平均的で目立たない、おとなしい人柄といえる。運動部・文化部とも所属の生徒は高校男子と好対象を示し、プロフィールは右下がり型で安定積極型である。この生徒達はバスケットボール部と華道部、水泳部と華道部、ワンダーフォーゲル部と器楽部などの組み合せで、"しっかり女性"の集団と言える。

〈表5〉　Y・Gの中高別、男女別、クラブ別の各項目の平均と標準偏差
（$C_{1\sim4}$）

その1（中学の部）

Y・G		対象数				平均				標準偏差			
		C＝1	C＝2	C＝3	C＝4	C＝1	C＝2	C＝3	C＝4	C＝1	C＝2	C＝3	C＝4
S	男	135	2	2	29	12.5704	16.5000	12.5000	10.8276	3.924	0.707	6.364	2.953
	女	115	47	7	19	13.7565	12.5532	11.2857	13.5263	3.568	4.348	5.090	4.128
A	男	135	2	2	29	9.8741	14.0000	6.5000	9.1034	3.939	0	0.707	3.697
	女	115	47	7	19	11.1391	10.5532	10.5714	11.0000	3.929	4.085	3.910	3.000
T	男	135	2	2	29	9.7926	7.0000	12.5000	9.4828	4.239	1.414	0.707	4.611
	女	115	47	7	19	10.5304	10.2979	10.0000	10.7368	4.327	4.491	4.163	4.759
R	男	135	2	2	29	14.1481	12.5000	18.5000	12.5172	4.068	2.121	0.707	3.247
	女	115	47	7	19	14.7652	13.3404	13.1429	13.2632	3.434	4.270	3.436	5.645
G	男	135	2	2	29	11.2444	13.5000	15.5000	10.2414	4.102	0.707	2.121	3.181
	女	115	47	7	19	10.7391	10.6383	11.7143	11.1579	3.635	4.178	3.147	3.500
Ag	男	135	2	2	29	12.0815	13.0000	8.5000	11.0000	3.746	4.243	4.950	2.632
	女	115	47	7	19	11.3565	11.0426	11.1429	11.5263	3.925	3.551	3.024	4.101
Co	男	135	2	2	29	10.0963	12.0000	12.5000	10.8621	4.265	1.414	0.707	3.815
	女	135	47	7	19	8.6696	8.1702	8.1429	7.4737	4.137	3.841	4.259	4.402
O	男	135	2	2	29	10.0444	7.0000	9.0000	9.1034	4.400	2.828	4.243	3.363
	女	115	47	7	19	9.8522	10.6170	12.1429	10.5263	3.630	4.296	4.220	4.754
N	男	135	2	2	29	9.7259	9.5000	6.0000	10.4138	4.971	4.950	1.414	3.896
	女	115	47	7	19	9.7304	9.9574	10.7143	8.4211	4.541	5.095	4.990	4.925
I	男	135	2	2	29	8.6222	6.5000	8.0000	9.7586	4.962	2.121	1.414	4.381
	女	115	47	7	19	8.8261	8.7447	9.5714	7.2105	4.568	4.430	4.928	4.454
C	男	135	2	2	29	10.2370	6.5000	7.5000	10.1379	4.441	0.707	2.121	3.691
	女	115	47	7	19	11.3565	10.9149	11.0000	11.6316	4.253	4.206	7.188	4.166
D	男	135	2	2	29	8.9926	11.0000	8.0000	9.0345	5.500	1.414	0	4.975
	女	115	47	7	19	9.5913	10.7021	11.8571	9.8947	5.396	4.934	4.845	4.886

※　C_1……運動部所属（CはClubの略）　　C_3……運動部・文化部両方所属
　　C_2……文化部所属　　C_4……無所属

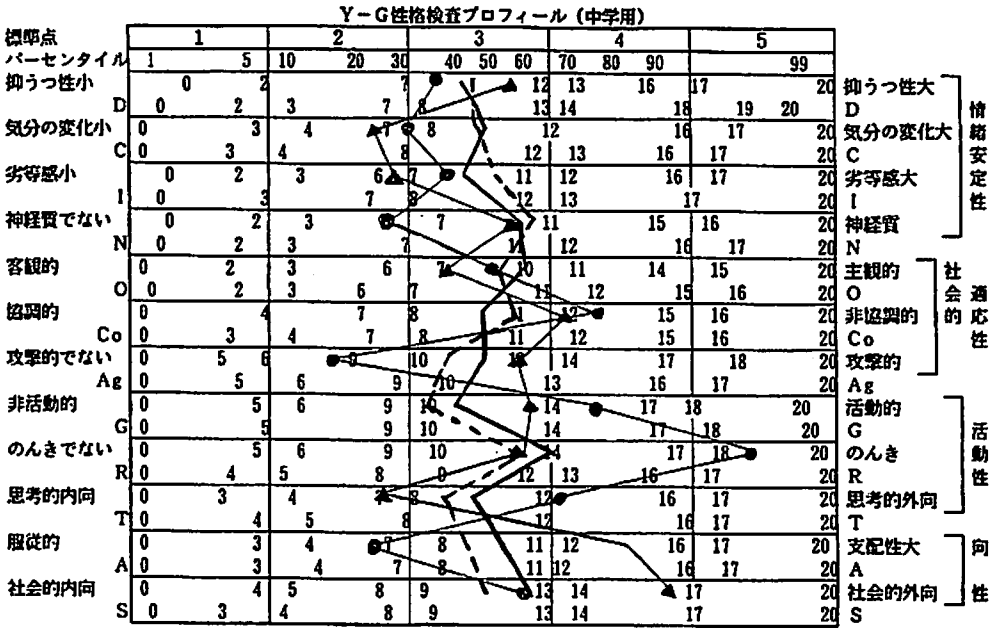
〈表５〉　Ｙ・Ｇの中高別、男女別、クラブ別の各項目の平均と標準偏差

その２（高校の部）

Ｙ・Ｇ		対象数				平均				標準偏差			
		Ｃ＝１	Ｃ＝２	Ｃ＝３	Ｃ＝４	Ｃ＝１	Ｃ＝２	Ｃ＝３	Ｃ＝４	Ｃ＝１	Ｃ＝２	Ｃ＝３	Ｃ＝４
Ｓ	男	85	7	12	71	12.7294	14.1429	10.0000	11.1127	4.620	4.059	5.377	4.566
	女	77	26	8	60	14.5195	11.5769	14.8750	12.6500	3.838	5.345	3.091	3.808
Ａ	男	85	7	12	71	9.9176	8.4286	7.3333	8.3380	5.162	5.381	4.355	4.283
	女	77	26	8	60	11.3896	10.0385	11.8750	10.3000	4.597	4.652	4.853	4.126
Ｔ	男	85	7	12	71	8.2235	9.8571	6.0833	7.9296	4.510	3.579	4.441	4.393
	女	77	26	8	60	10.4156	9.1538	11.5000	10.1833	4.532	4.679	6.969	4.638
Ｒ	男	85	7	12	71	13.0471	11.8571	11.5833	12.4789	4.700	4.670	3.919	4.504
	女	77	26	8	60	14.7662	11.1154	12.6250	14.0833	4.036	5.093	2.925	4.280
Ｇ	男	85	7	12	71	10.4588	13.2857	9.2500	10.2676	4.553	3.498	4.372	5.243
	女	77	26	8	60	11.0909	9.5770	12.3750	10.5333	4.010	3.962	3.378	3.972
Ａｇ	男	85	7	12	71	12.5059	10.8571	13.5000	12.2958	4.455	4.451	4.400	4.344
	女	77	26	8	60	12.6623	10.0000	12.0000	12.0000	4.278	5.146	3.024	3.746
Ｃｏ	男	85	7	12	71	9.6588	6.5714	12.5833	11.2817	4.537	2.699	4.699	4.250
	女	77	26	8	60	7.6363	8.2308	7.0000	9.4000	4.208	4.227	2.449	3.872
Ｏ	男	85	7	12	71	10.2353	9.1429	13.1667	10.9437	4.511	4.018	4.152	4.246
	女	77	26	8	60	10.7403	10.0385	7.8750	10.3667	3.861	3.400	4.454	3.527
Ｎ	男	85	7	12	71	10.5765	11.1429	11.0833	11.7324	4.991	3.338	4.852	5.493
	女	77	26	8	60	10.1299	9.5000	7.3750	10.7333	4.810	5.077	5.290	4.329
Ｉ	男	85	7	12	71	8.3176	9.1429	10.9167	8.8592	5.199	2.968	5.435	5.147
	女	77	26	8	60	8.3506	8.1923	6.0000	8.1667	4.650	4.907	5.264	4.548
Ｃ	男	85	7	12	71	10.9176	11.7143	12.0000	11.2113	4.860	2.752	4.805	4.309
	女	77	26	8	60	11.3896	9.8077	6.7500	11.4000	4.560	4.622	5.418	4.416
Ｄ	男	85	7	12	71	11.2000	8.0000	14.9167	10.8873	5.642	4.041	5.248	5.325
	女	77	26	8	60	9.8051	10.2308	7.0000	11.3167	5.282	5.101	4.899	5.347

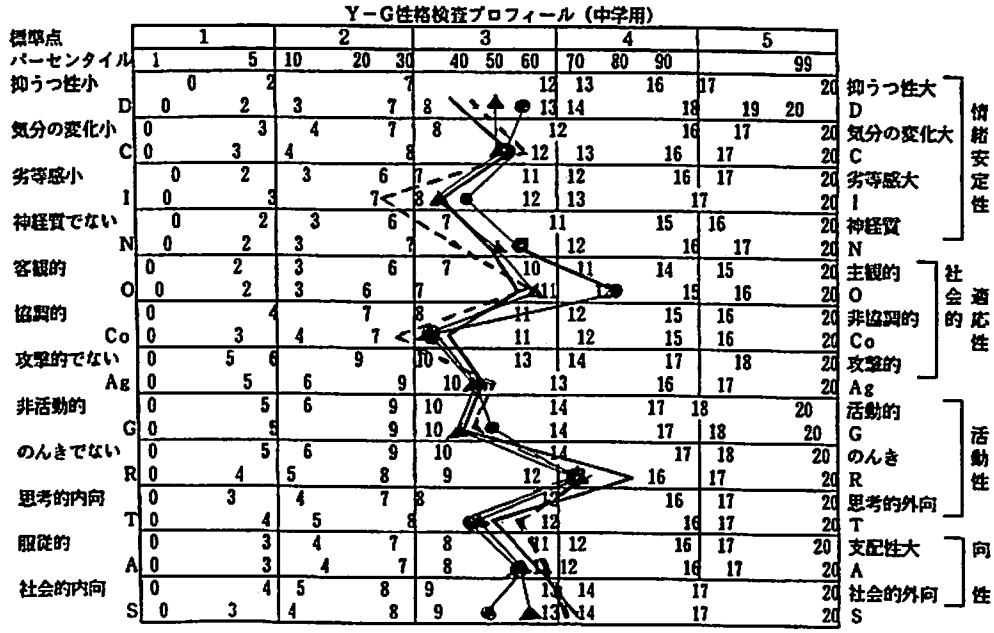
※　C_1……運動部所属（ＣはClubの略）　C_3……運動部・文化部両方所属

C_2……文化部所属　C_4……無所属



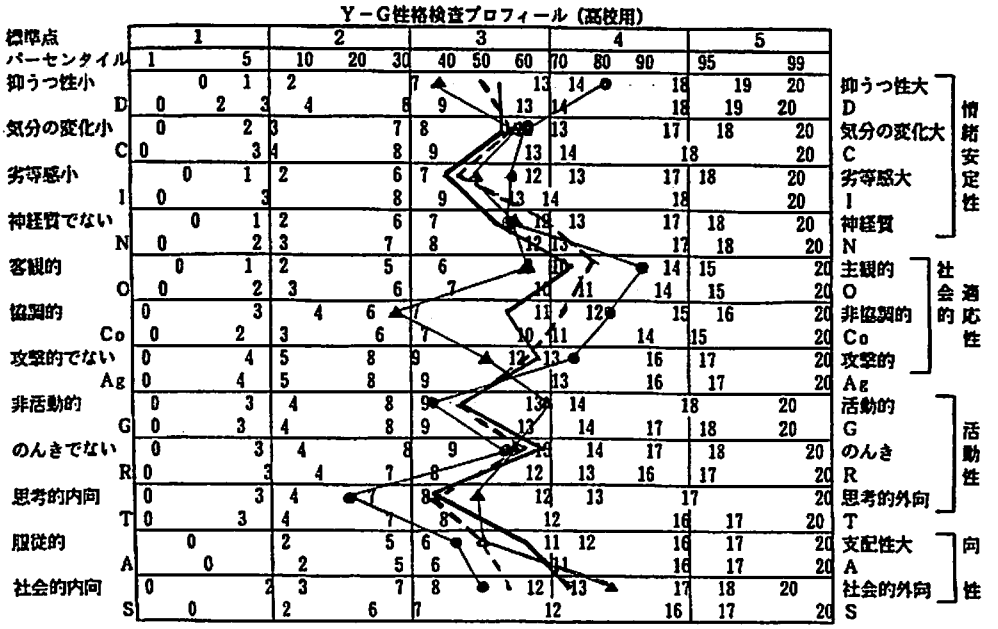
中学男子クラブ所属別

C₁（運動部所属）———（135名）　C₃（運動部文化部とも所属）—●—●—（2名）
C₂（文化部所属）—▲—▲—（2名）　C₄（無所属）……（29名）



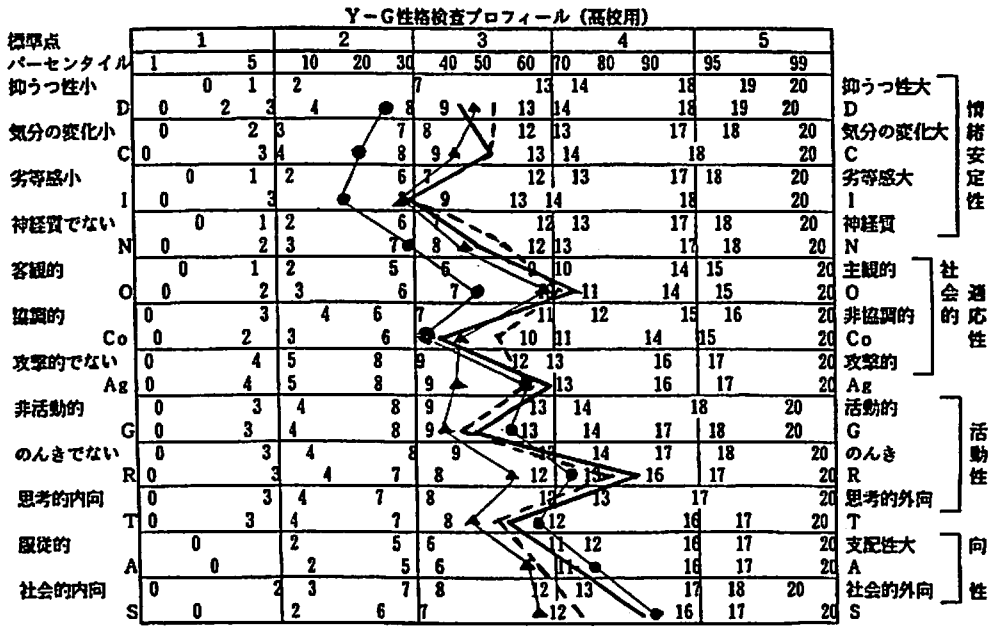
中学女子クラブ所属別

C₁（運動部所属）———（115名）　C₃（運動部文化部とも所属）—●—●—（7名）
C₂（文化部所属）—▲—▲—（47名）　C₄（無所属）……（19名）



高校男子クラブ所属別

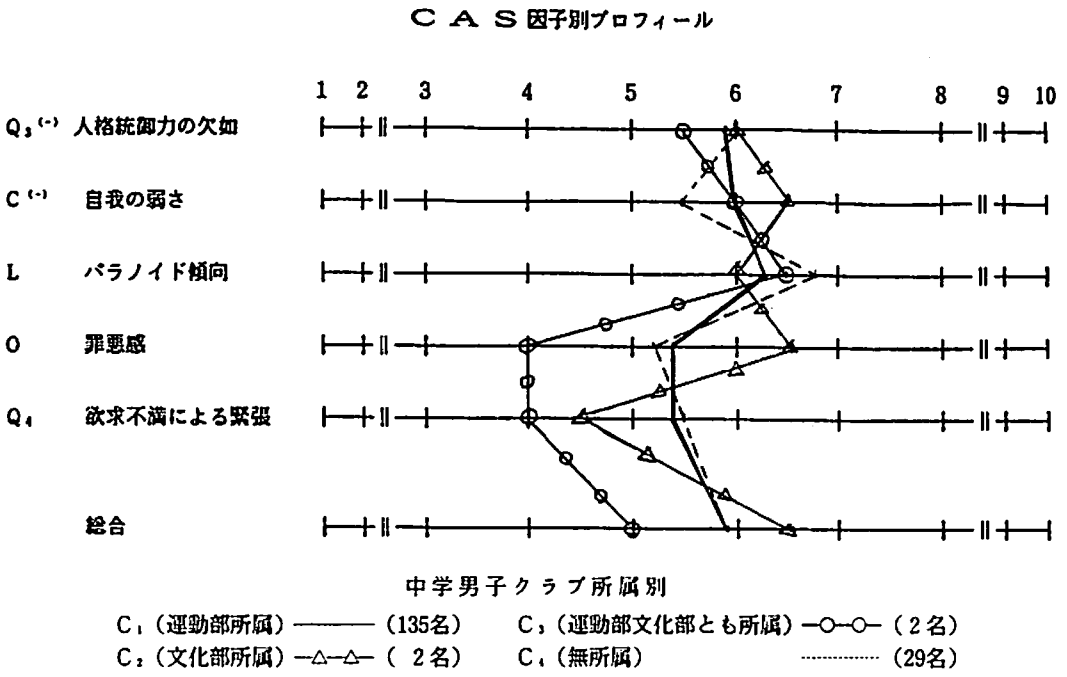
C₁（運動部所属）――――（85名）　C₃（運動部文化部とも所属）―●―●―（12名）
C₂（文化部所属）―▲―▲―（7名）　C₄（無所属）……（71名）

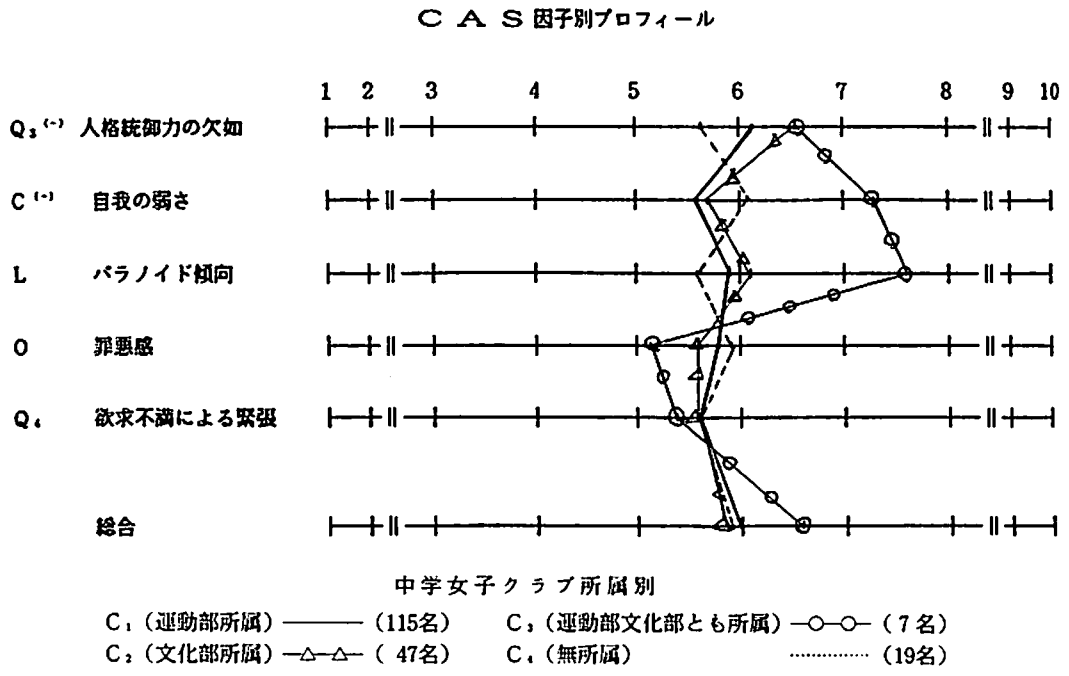


高校女子クラブ所属別

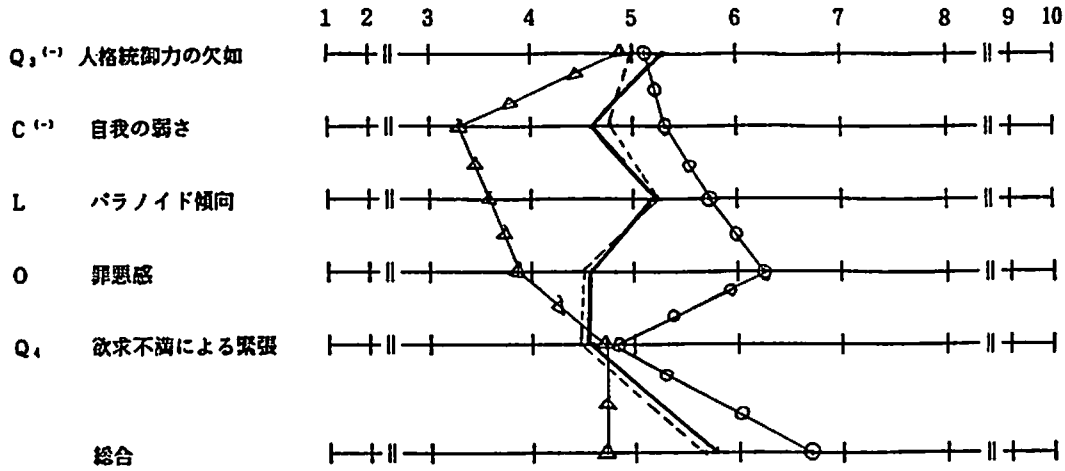
C₁（運動部所属）――――（77名）　C₃（運動部文化部とも所属）―●―●―（8名）
C₂（文化部所属）―▲―▲―（26名）　C₄（無所属）……（60名）

② クラブ所属別のＣＡＳ不安診断検査の結果とそのプロフィール





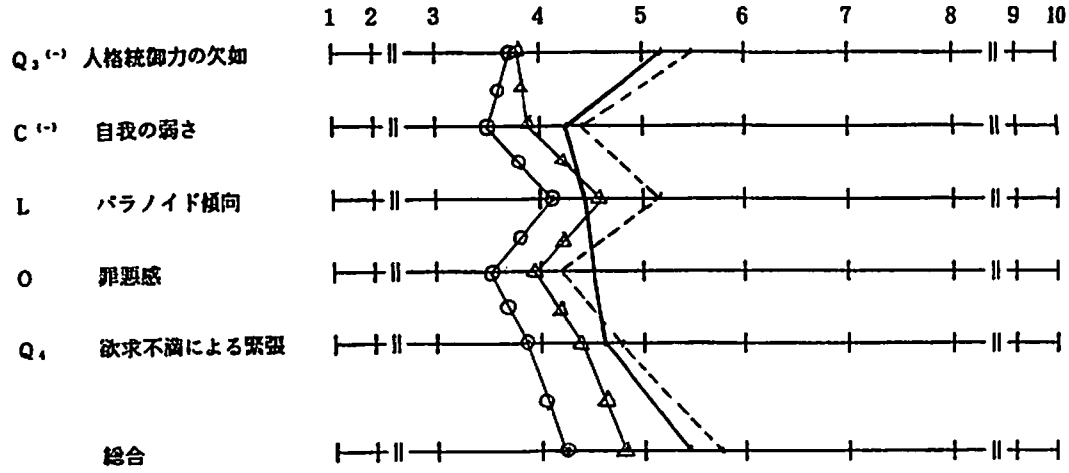
C A S 因子別プロフィール



高校男子クラブ所属別

C₁（運動部所属）———（85名）　C₃（運動部文化部とも所属）—○—○—（12名）
C₂（文化部所属）—△—△—（7名）　C₄（無所属）……（71名）

C A S 因子別プロフィール



高校女子クラブ所属別

C₁（運動部所属）———（77名）　C₃（運動部文化部とも所属）—○—○—（12名）
C₂（文化部所属）—△—△—（7名）　C₄（無所属）……（71名）

中学の場合、男女ともクラブの所属形態によって、不安傾向の因子にほとんど差は見えない。Y・G性格検査のところでも述べたように、各成員数にばらつきがあるため単純には比較ができない。

高校男女の場合も、運動部所属の生徒と無所属の生徒を比べても不安傾向に大きな差は見られない。高校生になると学習と運動部の活動を両立するにはかなりのストレスと緊張を要するようであり、精神的に余裕のあるものは少ないようである。ただ、ここでも高校女子の運動部・文化部とも所属の女子の精神的安定性にはみるべきものがあり、男子のそれとは大きなへだたりがある。

V. おわりに

以上のように、かなり大がかりな調査であったが本校生徒の性格特性や不安傾向の学年毎の特色、男女の差異、クラブ活動によるそれらへの影響などかなり具体的に把握できたように思う。今後これらの資料をもとに、生徒の心の内面的な理解に寄与できれば幸いである。

次稿ではこの研究につづいて、生徒達の“今の有様”を様々な生活実態と、親の関係から調査した結果を発表する予定である。